

いっしょに、生きていこう（城北川の現状）

城北川の上流から下流まで、毎日のように歩いてみた。元気な人びと、小さな動物、青々とした樹木に出会い、そして川岸の名所を発見した。旭区内を中心に紹介することにする。

夏の朝、国道163号の「葦橋」をスタートし、赤川町の「西浪橋」まで、往復約4.4キロメートルの道のりは40分ほどかかり、万歩計の数字も、7,500歩を超えていた。

おしゃれな白髪のお年寄りに会った。お元気そう

だった。

若いカップルに会った。輝く笑顔がすてきだった。小さなリュックを背負ったウォーキングラリーのグループに「おはよう！」と挨拶をした。

ジョギング・コースの標識も、各ポイントに立っている。1,000メートルから2,500メートルまでの全6コース。スポーツ少年からアスリートまで、老若男女が健脚を競っていた。

道すがら、水辺に遊び、川を愛する
場所や場面をみつけた。

～城北川のビューポイント～



写真■旭区民センター附近「アクアパーク」

旭区の花、菖蒲の花弁をイメージした噴水と流れる滝があり、アクアパークとして憩いの場として最適。



写真■東中宮橋右岸の「延命地藏」

東中宮橋たもとに「延命地藏尊」が祀られている。城北川の守る安全祈願に手をあわせる人を見かけた。



写真■東中宮橋～西中宮橋「旭区史跡彫刻壁画」

東、西中宮橋の護岸壁面約100メートルに「旭区史跡巡り」の壁面彫刻がある。城北菖蒲園・京街道・平太の渡し跡・・・など、みごとな作品群である。

城北川を散策すると、たくさんの橋に出会う。その数、全29橋梁。旭区には13の橋が架かっているが、そのうち2つの名橋を紹介してみたい。



写真■旧街道に架かる懐かしい橋「古市橋」

文禄6年間(1592～1597)、豊臣秀吉の命によりつくられた大阪城の京橋から京に至る「京街道」にかかる橋である。現在の橋は、城北運河の開削と合わせて、昭和12年(1937)に架設された。長さ約41メートル、幅7.3メートル。江戸時代の参勤交代や幕末の乱で敗れた武士に思いを馳せながら渡ろう。



写真■遊歩道と調和する優美な曲線「旭江野橋」

中宮1丁目と高殿5丁目を結ぶ橋である。遊歩道と調和し、女性的で優美な曲線が特長。長さ約37メートル、幅3メートル。昭和51年(1976)完成。旭区では菅原城北大橋、豊里大橋とあわせて、3名橋といわれている。

城北川を、生きものの楽園にしたい

親水護岸や橋の袂から釣り糸を垂れている太公望によく出会う。どんな魚がいるのでしょうかと聞いてみた。「ブルーギル・ブラックバス・コイなどがいる」と話してくれた。

蒼鷺の姿を見た。中葦橋の欄干に飛来して、釣り人たちの捕獲を狙っている。名前は「アオサギ」。全長90センチメートル、翼を広げると160センチメートル以上。クォーツと叫びながら、青い空へ飛んでいった。このほか、城北川にはカルガモ・キジバト・ムクドリ・ヒヨドリなども棲息しているという。



写真■城北川に棲息するアオサギ

水の都に住む人は（城北川の未来）

平成22年(2010)12月、城北川は70才になった。古稀を機に、可愛い子どもたちや孫のために、この川の未来を考え、新しい水の都を夢みて住みよいまちを提案することにした。